お知らせ・会務報告

東京例会開催のお知らせ

2018 年第 1 回例会を下記の通り開催致します．奮ってご参加ください．

日時　3 月 10 日（土曜日）　10：00 ～ 16：30
（当初の予定から変更となっておりますので，ご注意ください．）

場所　国立科学博物館附属自然教育園講義室
（正門を入って右手の建物）

〔交通〕JR山手線 「目黒」駅東口より目黒通り徒歩7分．または，東京メトロ南北線/都営三田線 「白金台」駅出口1より目黒通り徒歩4分．

当日の企画

1　談話会：10：00 ～ 13：00
自由な歓談の時間として会場を開放いたします．ミニ同定会や蘇虫会（自分にはさほど必要ない虫を必要とされる方に譲る会）など，内容には特に制約がありませんので，お気軽にご参加ください．

2　話題提供：13：00 ～
岩田隆太郎：「木質昆虫学」への招待
　食材性昆虫・木質依存性昆虫の生物学は従来，森林保護学(林学)，果樹害虫学(農学)，木材保存学(林産学)，森林物質循環学(生態学)という全く異なる分野で別々に研究されてきました．これら全分野横断で木質に関連するすべての昆虫類（食材性昆虫・木材穿孔虫・木質依存性昆虫）を統一的に扱うことが求められます．今回これを目的とした新しい学問分野「木質昆虫学」を，木質と樹木の基本，木質と昆虫の関わり，昆虫による木質成分分解，樹木の生死との関連，関連する他の生物との関係などの話を中心に紹介していただきます．
瑤寺　裕：旧世界におけるチビタマムシ族の交尾器形態について
　チビタマムシ族は3～5mm程の小形のタマムシ科で，同定には上翅の毛の色彩やその斑紋などが重要とされますが，毛が剥げてしまった個体は同定が困難になることも珍しくありません．演者は，これまでほとんど記載されてこなかったチビタマムシ族の雌雄交尾器形態に着目し，同定形質としての有用性とそれに基づく種間関係の研究を行ってきました．今回は日本産種を中心に，旧世界に産するチビタマムシ族の交尾器について比較検討した結果を紹介していただきます．

3　一人一話

（東京例会運営幹事　高橋和弘　〒 259-1217　平塚市長持 239-11　E-mail: kazu5@mg.scn-net.ne.jp）

大阪春季例会開催のお知らせ

2018 年度第 1 回大阪例会を下記の通り開催いたします．皆様，多数ご参加ください．

日時：2018 年 3 月 24 日（土）10 時～ 16 時 40 分
場所：大阪市立自然史博物館（大阪市東住吉区長居公園 1-23）Tel. 06-6697-6221
HP: http://www.mus-nh.city.osaka.jp/　通用門よりお入り下さい．
プログラム：　10:00 ～ 12:00　自由懇談・同定会，大阪例会運営幹事会

12:00 ～ 13:00　昼食，休憩
13:00 ～ 13:30　会務報告会・例会事務連絡
13:30 ～ 15:30　講演：未定
15:40 ～ 16:40　未定
17:30 ～ 19:30　懇親会（場所：アサヒビアケラー・アベノ）
大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-5-36　Tel. 06-6641-6282

懇親会会費：5,000円（飲み放題）
講演：「国産タテヅノマルバネクワガタ種群の生息現状」
演者：田中良尚（伊丹市昆虫館　学芸員）
要旨：本邦には，マルバネクワガタ属大型種が琉球列島に3種分布する．各種ともボリューム感あふれる形態と興味深い生態をもつ．本講演ではそれらの生態・分布についての最新知見，ならびに現在の生息状況について紹介する．
例会・懇親会の事前の参加申し込みは不要です．当日，例会参加者はお茶代・資料代として200円を徴収いたします．懇親会は当日受け付けます．

2018年度例会の予定
1．秋季例会：2018年9月29日（土）10時～16時40分　講演：未定
2．年末例会・忘年会：2018年12月8日（土）10時～16時40分　講演：未定
場所：いずれも大阪市立自然史博物館
内容：自由懇談会・同定会，大阪例会運営幹事会，会務報告会，講演会，「一人一話」会．懇親会はアサヒビアケラー・アベノで，17時30分から19時30分の予定．

（大阪例会運営幹事　澤田義弘　E-mail: sawada-f@gol.com）

名古屋例会開催のお知らせ

2018 年度第 1 回名古屋例会を，下記のとおり開催しますので，ぜひご参加ください．

日時　2018 年 2 月 4 日（日）午前 10 時～午後 5 時
場所　三重県環境学習情報センター 1 階研修室（四日市市桜町 3684-11）東名阪「四日市 IC」から車で約 15 分．駐車場（無料）あり．

当日の内容
1　情報交換，同定など（午前 10 時～ 12 時）
2　講演（午後 1 時～ 3 時 30 分）
(1) 高橋和弘「ジョウカイボン研究の現状と今後の課題」
(2) 井上晶次「名古屋東山の森の灯火採集による甲虫類調査12年間のまとめ」
3　一人一話など（午後 3 時 30 分～ 5 時）
4　その他
(1) 車で来られない方は，近鉄湯ノ山線「大羽根園駅」から，車での乗り合わせの手配をしますので，運営幹事の生川までご連絡ください．
(2) 大会終了後は，懇親会も開催いたします．
(3) 昼食や飲物は必ず持参してください．

（名古屋例会運営幹事　生川展行 tritoma@mecha.ne.jp　Tel 059-374-1054）

日本甲虫学会第 8 回大会報告

2017 年 11 月 25 日（土）から 26 日（日）の日程で，日本甲虫学会第 8 回大会が静岡県静岡市で実施された．静岡県での大会の開催は旧日本甲虫学会，日本鞘翅学会を通じてはじめてのことである．今回は 1 日目と 2 日目で別会場での開催で行った．1 日目は静岡駅近くの貸会議室の一室を借りて行い，2 日目は昨年開館したばかりのふじのくに地球環境史ミュージアムで行い，135 名の参加があった．

1 日目は公開講演会「海辺に生きる～海浜性・海岸性の甲虫たち～」と題して，5 名の方にご登壇いただいた．大原昌宏氏による「環太平洋北部の海浜性甲虫類」は，日本，千島，北米西部等の海浜性甲虫調査の概要の紹介の他，生息環境との関係や海岸環境の保全についても深い示唆のある発表であった．続く「海辺に生きる植物 ～汎熱帯海流植物の進化史～」は会員外の植物学者，ふじのくに地球環境史ミュージアムの高山浩司氏による講演で，世界に広く分布する海浜性植物に関する進化や分布拡大の歴史を , 分子系統解析により明らかにされている研究の紹介は，会員諸氏にも聞きごたえがあったのではないだろうか．上記 2 題は基調講演的な位置づけで，少し長めの時間発表をしていただいた．その後，有本晃一氏によるコメツキムシ，浅野真氏によるジョウカイモドキ，吉富博之氏によるチビドロムシを中心としたそれぞれに充実した内容の発表をしていただいた．総会の後，本年度の日本甲虫学会賞を受賞された藤澤侑典氏による受賞講演は，受賞論文の内容だけではなく，広くアジアに生息するクモゾウムシの近縁群の解説を含む興味深いもので，まだ数多くの未記載種がある上，未発見種もまだまだありそうで，今後の研究の進展が楽しみなものであった．

懇親会はホテルセンチュリー静岡に移動し，平井剛夫大会会長の乾杯で行われた．懇親会ではホテルに地元食材を使った料理を特別にご用意いただき，静岡の地酒も厳選したものを準備した．そのことについて，一部の方から絶賛していただいたことは嬉しかった．中盤に次年度大会開催地の「栃木県立博物館」に縁がある吉富博之氏から開催地の案内を頂戴し，会の終わりには青木淳一先生にスピーチを頂き閉会となった．

2 日目は場所をふじのくに地球環境史ミュージアムに移し開催された．午前に同定会とポスター発表（3 件）が行われた．同定会は会員諸氏にご協力いただき盛況であった．午後は 2 会場に分かれ一般講演（14 題）と 5 つの分科会（雑甲虫，ゴミムシ，ゾウムシ，カミキリ，ハネカクシ）が行われた．大会を通し，会場の狭さや移動などの不便さや，講演要旨集の不備など参加者の皆様にはご不便やご迷惑をおかけしたことを，お詫び申し上げる．しかしながら全体としてはご協力頂いた大会事務局委員の皆さんと参加者の皆様のおかげで，有意義な大会となったと考えている．ここに厚くお礼申し上げる．

（大会事務局長　岸本年郎）

写真1　野村会長から賞状を受け取る藤澤氏.

写真2　懇親会の様子.

写真3　口頭発表会場Aの様子.

写真4　口頭発表会場Bの様子.

「福島県のマルコガタノゲンゴロウ保全に関する要望書」の提出について

福島県下で計画されているメガソーラー発電設備によって，種の保存法の対象種であるマルコガタノゲンゴロウが福島県下から絶滅してしまうことが強く懸念されたことから，自然保護委員会からの発議に基づいて，平成 29 年 11 月 25 日付で，日本甲虫学会と日本昆虫学会が連名で監督省庁である環境省（環境大臣）宛に本種個体群の絶滅や減少を回避する対応を検討するよう以下のような要望書を提出した．（ただし以下の要望書内容の公開にあたっては，生息地に関する具体的な情報は個体群保護の観点から伏字としている．）

（自然保護委員会）

福島県のマルコガタノゲンゴロウ保全に関する要望書

環境大臣　中川 雅治　殿

時下ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、マルコガタノゲンゴロウは、水質のよい湿地などに生息する水生甲虫です。2011 年には「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）に基づく「国内希少野生動植物種」に指定され、全国で民間レベルでの保全活動が進められてきました。しかし、その後の調査では、2011 年の指定時に国内に残っていた個体群のうち、7 割近くが指定後の 5 年間で絶滅しており、現在では国内に現存する生息地はわずか 15 ヶ所にすぎません。本種は、今後数十年のうちに、国内からの絶滅が強く懸念される状態になっています。

こうした状況下で、最近、福島県[redacted]に残るマルコガタノゲンゴロウの生息地周辺で、メガソーラー発電設備の建設が計画されているという情報が地元選出の日本甲虫学会、および日本昆虫学会の自然保護委員から寄せられました。現在までにマルコガタノゲンゴロウは福島県では、わずか 3 ヶ所のみで記録されていますが、このうち 2 ヶ所での発生は偶発的で安定しておらず、今回の事業地周辺の池が、実質的に福島県で唯一の生息地となります。マルコガタノゲンゴロウは生息地である湿地が開発されなくとも、周辺での大きな環境の改変によって、個体群に甚大な影響を受けることが強く懸念されます。

マルコガタノゲンゴロウにメガソーラー開発が与える影響として懸念される具体的な危険性は、以下のとおりです。

●生息地である湿地周辺の樹木の伐採や土壌の削り取り、管理道路の設置等は水温・水質・水生植生など池の生態系を著しく変化させる可能性が高い上に、不可逆的な改変であり、自然環境が将来に渡って再生・回復する見込みがないこと。

●メガソーラー発電施設によって、室内温度が上昇して生活できなくなったという訴訟が住民から起こっていること（例えば神戸地裁姫路支部、2015 年 9 月など）から判断しても、発電パネルによって年間を通して周辺の温度が上昇し、生息地である湿池の水温や植生などの環境が現状から大きく変化することで、マルコガタノゲンゴロウの生息に極めて大きな影響を与えることが予想されること。

●ゲンゴロウ類は、反射するものを水面と認識することが知られており、飛翔した際に、メガソーラー発電のパネルに誤って着地して死亡することが予想されること。

●現存するマルコガタノゲンゴロウの生息地は、いずれも池の集水域が改変されていない場所に限られていることから、湿池周辺の開発に伴う集水域の改変が個体群の存続に深刻な影響を与える可能性が懸念されること。

以上のことから、メガソーラーによる開発によって、種の保存法の対象種であるマルコガタノゲンゴロウが福島県下から絶滅してしまうことが強く懸念されます。

そこで、日本甲虫学会、および日本昆虫学会は、甲虫類を始めとする昆虫類の専門家が集まる学術団体として、この由々しき事態を鑑み、貴省に対し、行政機関として本メガソーラー発電施設建設がもたらすマルコガタノゲンゴロウへの影響を十分に考慮し、計画の撤回も含めて、個体群の絶滅や減少を回避する対応を検討いただくことを強く要望致します。

平成 29 年 11 月 25 日

日本甲虫学会

会長　野村 周平
〒305-0005　茨城県つくば市天久保4-1-1
国立科学博物館動物研究部

日本昆虫学会

会長　秋元 信一
〒305-0005　茨城県つくば市天久保4-1-1
国立科学博物館動物研究部

※　本件についてのお問い合わせは、下記までお願い致します。

荒谷 邦雄（日本甲虫学会・日本昆虫学会自然保護委員長）
〒819-0395　福岡市西区元岡 744 番地
九州大学大学院比較社会文化研究院
TELFAX: 092-802-5647
Email: uraya@scs.kyushu-u.ac.jp

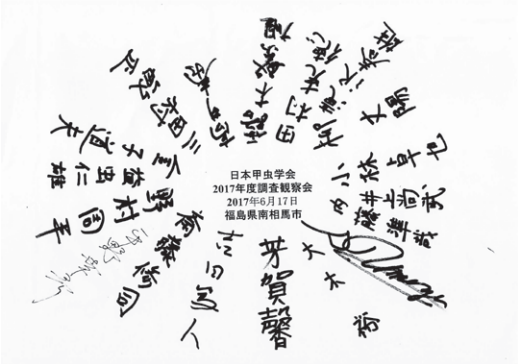
2017 年調査観察会報告 (第 6 回) 報告

1. 開催日程：2017年6月17(土)～18(日)
2. 開催場所：福島県南相馬市
3. 参加者数：18名
4. 調査結果：福島昆虫ファウナ調査グループ発行の会誌「Insec TOHOKU」の第43号(2018年1月発行)に報告される予定
5. 開催状況については，以下，大木裕さん(幹事補佐)に執筆をお願いしました．

調査観察例会に参加して：齋藤修司氏から事前に郵送された案内に従って，各自それぞれの虫を狙って，飯館村野手上山，南相馬市助常林道，二本松市日山遊歩道等を訪問しました．今回のトピックスは，雑甲虫，カミキリムシ，ハムシ，ゴミムシダマシ・糞虫，ガムシ・ゲンゴロウ等の大御所が幸運にも勢ぞろいし，さながら甲虫オールスター戦のような豪華メンバーが一堂に会したことです．虫のファミリーを超えた懇親に加えて，東北の虫屋さんと他の地域の虫屋さんが地域を超えた交流の縁を結ぶ一夜であり，甲虫史上に残るイベントであったといっても過言ではないでしょう．企画・セティングの一切をお願いした現地幹事の齋藤修司さんのきめ細かいご配慮に深く感謝申し上げる次第であります．成果は年内にまとめられ，福島昆虫ファウナ調査グループの機関誌Insect Tohokuに発表されると聞いています，平野幸彦さんは早速，彼の主宰するFacebookサイト“2mmクラブ”に成果の写真を公表され，ネット上で活発な意見が飛び交っています．宿泊した民宿“いちばんぼし”では，朝市で仕入れた地元野菜のさまざまな料理を楽しむことができ，野菜というのはこんなにおいしいものかという再認識をしました．また，すべてが木材で作られた広い風呂と木材インテリアの客室により，木造建築の贅沢さを味わうことができました．飯館村は今年になってから立ち入り禁止が解除された地域ですが，訪れてみて以下のような印象を持ちました．日本人として一度は訪れるべき場所と思いました．1) 家はあれども人はいない．いるのは他から来た工事の人ばかりで，道を尋ねても誰も答えられない．2) ビニールシートで覆われた除染土壌が積まれていて，古墳群のような景観．3) パトカーの警官もマスクをしている．4) スポット的な線量オーバーのため，道が途中で，前ぶれもなく突然通行止めになっている場所がある，カーナビがなければ当然迷子になる．5) テレビで毎日，放射線量の予報が出る．

乞食石林道の帰りに，横川ダムのトンネル近くでパンクしてしまいました．線量が高く誰も近づきたがらない場所なので，どうなるかと心細くなりましたが，それを承知で救援に来てくれたロードサービス“クルマのわかつき”の担当者や，速やかにタイヤの交換をしてくれたイエローハットの方々(震災の時も閉店せずに地元のために頑張ったことで有名な店舗)から，福島県民の心やさしさを学ぶことができました．虫以外にも多くのことを調査観察でき，収穫の多い調査観察例会でした．

(調査観察会幹事　日下部良康　横浜市都筑区)



2017 年度第 6 回評議員会報告

開催日時：2017 年 11 月 25 日（土）10:00 ～ 12:00
場　　所：レイアップ御幸町ビル CSA，会議室 5-C
出 席 者：評議委員総数 28 名中 28 名出席 (委任状提出者 7 名を含む)

庶務幹事が評議員会の成立要件を満たしていることを確認したのち，会長を議長として協議に入った．まず会計幹事より会計報告，各委員長より機関誌等の発行，例会や評議員会の開催状況など 2017 年度の事業報告があった．次に自然保護委員会活動，2017 年度学会賞選考結果（論文賞：藤澤侑典，小島弘昭，功労賞および奨励賞は該当者なし）が各委員長より報告された．これら報告と審議を経て，下記の議題を総会に諮ることとした．

議案 1：2016 年度収支決算報告について
・会計幹事より会員動静と決算報告があり，審議・承認された．
議案 2：2017 年度事業計画について
・機関誌等の発行予定，各地方例会の開催予定などを審議し，事業計画は承認された．
議案 3：2018 年度予算案について
・会計幹事より議案 2 の事業計画遂行のための予算案の説明があり，審議・承認された．
議案 4：会則の改訂案について
・選挙制度ワーキンググループからの発案にもとづき選挙制度に関する会則の見直しを行い，適切な文言に改訂する旨の説明と提案があり，審議のうえ承認された．
議案 5：2018 年度第 9 回大会開催地について
・2018 年 12 月 1 日（土），2 日（日）に，栃木県立博物館での開催を予定とし，事務局には同博物館の研究員かつ本会会員の栗原隆氏に委任することとした．

（庶務幹事　亀澤　洋）

第 8 回総会報告

開催日時：2017 年 11 月 25 日（土）15:00 ～ 16:00
場　　所：レイアップ御幸町ビル CSA，会議室 5-C

大会初日の午後，公開講演後に総会が開催された．冒頭の会長挨拶に続き，総会議長に奥田副会長を選出し，庶務幹事より 2017 年度事業報告を行った．続いて，自然保護委員会活動，学会賞選考結果の各報告がそれぞれの委員長からあった．その後審議に入り，下記の議案の審議が行われた．

議案 1. 2016 年度収支決算
・会計幹事より決算説明があり，会計監査委員報告と併せて，異議なく承認された．
議案 2. 2018 年度事業計画
・庶務幹事より機関誌等の発行や例会などの事業計画の説明があり，いずれの事業計画も異議なく承認された．
議案 3. 2018 年度予算案
・会計幹事より収支予算案の説明があり，異議なく承認された．
議案 4. 会則の改訂案
・改訂案は異議なく承認された．

審議事項が終了してから第 9 回大会に関する報告があり，2018 年 12 月 1 日（土），2 日（日）に，栃木県立博物館における開催が予定されていることが伝えられた．

このあと 2017 年度学会賞の論文賞の授与式に移り，論文賞受賞者による記念講演が行われた．

（庶務幹事　亀澤　洋）

1. 2016年度決算報告

項　目	予　算	決算額	差　額
	円	円	円
前年度繰越金	5,146,446	6,544,296	1,397,850
会費収入	5,480,000	5,414,000	△ 66,000
（正会員＠8,000円×660名＝5,280,000円）			
（学生会員＠5,000円×20名＝100,000円）			0
（団体会員，海外会員＠10,000円×10＝100,000円）			
広告費	60,000	104,000	44,000
(Elytra, new series: 40,000円）			0
(さやばねニューシリーズ　20,000円）			0
出版物売上金	100,000	79,240	△ 20,760
学会誌著者負担金	400,000	531,306	131,306
雑収入		201,979	201,979
	11,186,446	12,874,821	1,688,375

項　目	予　算	決算額	差額
	円	円	円
会誌印刷費	4,880,000	3,743,975	1,136,025
(Elytra, new series 印刷 3,000,000 円)		*1,858,004*	
(Elytra, new series 送料 160,000 円)		*138,207*	
（さやばね 1,720,000 円）		*1,747,764*	
事務費	700,000	739,822	△ 39,822
通信費	30,000	19,973	10,027
大会例会助成費	160,000	120,000	40,000
報償費（学会賞）	160,000	36,000	124,000
選挙事務費	200,000	115,426	84,574
予備費	100,000	0	100,000
負担金（分類学会連合負担金）	10,000	10,000	0
次年度繰越金	4,946,446	8,089,625	△ 3,143,179

2. 特別会計　2016年度決算報告

収　入	予　算	決算額	差　額
前年度繰越金	2,059,776 円	2,059,776	0 円
利息		190	190
合　計	2,059,776	2,059,966	190

支　出	予　算	決算額	差　額
次年度繰越金	2,059,776 円	2,059,966　円	190 円
合　計	2,059,776	2,059,966	

3. 2018年度予算

取　入	内訳		(円)
前年度繰越金			8,089,625
会費収入			5,485,000
	正会員＠8,000円×660名＝	5,280,000	
	学生会員＠5,000円×21名＝	105,000	
	団体会員，海外会員＠10,000円×10＝	100,000	
広告費			165,000
(Elytra, new series)	カラ―1頁年間57,000円×1社	57,000	
(和文誌)	カラ―1頁年間108,000円×1社	108,000	
出版物売上金	バックナンバー等		100,000
別刷り代等	別刷り等著者担金等		500,000
合　計			14,339,625

支　出	内訳		予　算
会誌印刷費			4,960,000 円
(Elytra, new series)	印刷費＠1,400,000×2回	2,800,000	
	送料＠80,000円×2回	160,000	
(和文誌)	印刷費（送料込）＠500,000×4回	2,000,000	
事務費.通信費			750,000
	Elytra, new series編集費	300,000	
	和文誌編集費	100,000	
	タックシール、振込手数料、消耗品等	150,000	
	バックナンバーpdf化費用	50,000	
	選挙関連費用	150,000	
大会・例会助成費			160,000
	大会助成費	100,000	
	東京例会会場費＠10,000×2	20,000	
	大阪例会助成費＠10,000×2	20,000	
	名古屋例会助成費＠10,000×2	20,000	
報償費（表彰楯代）	学会賞＠20,000円×3	60,000	60,000
旅費（費用弁償）	学会賞受賞者旅費＠20,000円×3人	60,000	410,000
	運営幹事会旅費	350,000	
予備費			50,000
負担金	分類学会連合分担金		10,000
次年度繰越金			7,939,625
合　計			14,339,625

4. 特別会計　2018年度予算

収　入	内訳	(円)
	前年度繰越金	1,559,984
合計		1,559,984

支　出	内訳	(円)
	次年度繰越金	1,559,984
合計		1,559,984

目　次

（p. 62からの続き）

■お知らせ・会務報告

訂 正 …… 13
東京例会開催のお知らせ …… 54
大阪例会開催のお知らせ …… 54
名古屋例会開催のお知らせ …… 55
日本甲虫学会第8回大会報告 …… 56
「福島県マルコガタノゲンゴロウ要望書」の提出について …… 57
2017年調査観察会報告(第6回)報告 …… 58
2017年度第6回評議員会報告 …… 59
第8回総会報告 …… 59

目　次

■解説
青木淳一：いわゆるホソカタムシ類の所属変更と新しい種リスト …… 1

■論文
相本篤志：山口県におけるキボシチビコツブゲンゴロウの初記録と若干の知見 …… 10
市川靖浩・岩田泰幸：愛知県から初記録となるセマルヒメドロムシ …… 14
渡部晃平・北野　忠・上手雄貴：四国におけるゲンゴロウ科2種の初記録 …… 19
末長晴輝・竹本拓矢：中国・四国地方のシラタカハムシとクロルリハムシについて …… 24
苅部治紀：甲虫コレクションガイド9　神奈川県立生命の星・地球博物館 …… 30
冨樫和孝・岩田泰幸・高野雄一：山梨県におけるクロゲンゴロウの記録 …… 34
鈴木邦雄：富山県から初めて発見されたオオルリハムシ（ハムシ科，ハムシ亜科）個体群 …… 38
鈴木邦雄・岩田朋文・南　雅之：富山県のオオサルハムシ―附：本種の寄主植物に関する覚書― … 43

■短報
澤田研太：ヤノコモンタマムシを富山県で採集 …… 9
亀澤　洋：伊豆半島からのコモンキノコゴミムシダマシの採集記録 …… 17
源河正明：東京都奥多摩町のツメボソクビナガムシの記録 …… 18
岩田泰幸・高野雄一：新潟県におけるエゾゲンゴロウモドキの追加記録 …… 21
伊藤　淳・阪本優介：ハラアカクロテントウを東京都と神奈川県で採集 …… 22
新里達也・伊藤建夫：キバネアラゲカミキリの成虫を晩秋の野外で採集 …… 23
久松定智・橋越清一：ヨドシロヘリハンミョウを愛媛県から初確認 …… 26
黒田悠三：フトヒゲコメツキダマシの京都府からの初記録 …… 27
重藤裕彬：ヨツモンカメノコハムシの分布北限記録の更新 …… 27
山田　航：長野県安曇野市でツヤキカワムシを採集　28
田中　稔：屋久島のアマミマルカッコウムシ…… 29
吉武　啓・槇原　寛：茨城県におけるハラアカコブカミキリの採集例 …… 33
伊藤　淳・前原和雄：本州のリュウキュウダエンチビドロムシとチビドロムシ …… 36
宮尾真矢・木川康彦：オサムシタケに寄生されたコクワガタの記録 …… 42
亀澤　洋・浅野　真・池田　大：本州および四国からヒコサンヒメジョウカイモドキを発見 …… 46
渡辺黎也：シマゲンゴロウとコシマゲンゴロウの越冬場所を示唆する観察例 …… 47
末長晴輝：岡山県におけるキボシチビコツブゲンゴロウの記録 …… 48
池田　隆：外来種ムネアカオオクロテントウを京都府で発見 …… 49
梅村信哉・岩佐康平：福井県におけるカワラハンミョウの記録 …… 50
飯田恭平・藤本将也：口永良部島におけるシロモンオオヒゲナガゾウムシの記録 …… 50
末長晴輝・渡部晃平・山地　治：岡山県におけるサメハダマルケシゲンゴロウとオオマルケシゲンゴロウの初記録 …… 51
山田昌美・滝沢春雄・小島弘昭：クロホシシギゾウムシの東京都における採集記録 …… 52

（中に続く）

さやばね　ニューシリーズ　第 28 号

発行日　2017 年 12 月 30 日
次号は 2018 年 3 月下旬発行予定
発行者　野村周平
編集者　吉富博之（委員長），大林延夫，谷角素彦，小島弘昭，奥島雄一，保科英人，中峰　空，簑島悠介
発行所　日本甲虫学会
〒 305-0005　つくば市天久保 4-1-1
国立科学博物館動物研究部
電話 03-3364-2311

原稿送付先（さやばねニューシリーズ）
〒 790-8566　愛媛県松山市樽味 3-5-7
愛媛大学農学部環境昆虫学研究室　吉富博之
電子メール：hymushi@agr.ehime-u.ac.jp
印刷所　株式会社ハラプレックス
年会費　一般会員 8,000 円（前納制）
学生会員 5,000 円（前納制）
郵便振替口座番号　00880-2-190472
ホームページ　http://kochugakkai.sakura.ne.jp/